

2026年2月号 NO74

分所長 高木敏彦

節分大祭の大型活動、ご苦労様でした。寒い中での人型宣教は厳しいものですが、人型を書いていただけだと嬉しいものです。

今年の綾部は厳しい寒さの中でしたが、節分らしい大祭でした。寒い中を長生殿に戻つてきた瀬織律姫の真剣な姿を見たときに、感動を覚えました。人群万類の偉せを祈り、挙げる祝詞の熱気で寒さも忘れてしまうほどでした。刈谷分所より金明水を頂きましたので、各自ベットボトルなどを分所に持参頂きお持ち帰りください。節分大祭のご神水を混ぜていますのでお蔭を頂いてください。

節分を終えると立春で、春に向かいますが、まだまだ厳しい寒さが続きますのでお体には気を付けてお過ぎください。

碧南分所だより

信教の自由

出口 王仁三郎

人間は天から降つたか、それとも地から生まれたのか。天から降つたものなら、必ず天国へ昇り帰るはずだ。地から生まれたものなら、再び地底に落ちていくだろう。生まれない先と死んだ後は、もはや人間ではない。人間を論ずるならば人生でたくさんだ。死なんがために生れたものは死んだがよい。寂滅為楽の宗門

主な行事予定

の好きな人間なら誰にも遠慮は要らぬ。ドシドシ寂滅して樂となすがよい。アダメ、イヴを人間の祖先と信じ、祖先の罪を引つかぶることの好きな人間は、自分を罪の子として、どまでも謝罪し、一生罪人で暮らし、十字架を負うたがよい。

神の分身分霊と信じ、神の子神の宮と自分を信ずるものは、どまでも永遠無窮の生命を保ち、天国に復活して、第二の自分の世界に華やかに活動するがよい。人間はどうせ裸体で生まれて裸体で天国に復活するのだ。その人間の行路はなかなかに面白いものだ、そに人生の価値があるのだ。

永遠に生きんとするには第一に信仰の力が要る。その力は神によれる力が最も強く、その言靈大きくなくてはならぬ。

人生に宗教のあるのは全ての樹草に花のあるようなものだ。花が咲いてそして立派な実がみるのである。いずれにしても信教は自由だ。意志想念のままなる天地だ。天国に落つるも昇るも、地獄に楽しむも苦しむも、自ら罪人となつて喜ぶも泣くも、意志の自由だ。人間は各自勝手に宗教を選択するがよい、それがいわゆる信教の自由といつものかも知ぬ。

2月の誕生者
おめでとうございます！

三浦 捷	据奥 健	2日	加藤 結花里	4日	小笠原
8日	蒲生 百合子	9日	高橋 さかえ	1	
0日	石川 四方子	榎本 さおり	15日	奥谷	
衛子 片岡 忠	18日	小笠原 春代	20日		
大塚 風香	安藤 雄馬	22日	鈴木 はるみ		
26日 市古 由美	28日				